

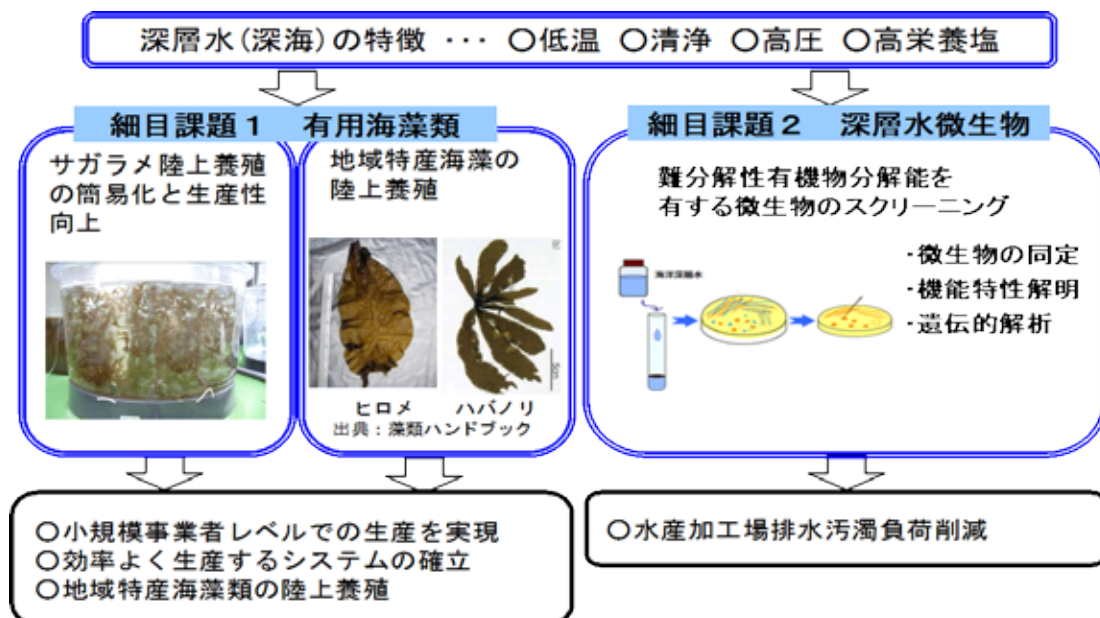
新しい深層水産業を創出するシーズの開発

(予算区分 県単独 研究期間 平成27～29年度)

担当：深層水科 飯沼紀雄 中村永介

【研究の背景とねらい】

- ・水産技術研究所が開発した食用海藻サガラメの浮遊培養技術は、生活史のすべてを陸上水槽内で浮遊した状態で培養管理できる画期的なサガラメの生産方法です。その事業化を促すため、小規模事業者レベルではサガラメの自力一貫生産を可能にする技術を、大手企業レベルでは培養条件の最適化による生産性の向上したシステムを開発します。併せて、ヒロメやハバノリ等の地域特産海藻にも浮遊培養技術を適用する生産マニュアルを策定します。
- ・深層水に生息する微生物が有する特徴のひとつに難分解性有機物の分解能力があります。そこで、水産加工場の排水に含まれる難分解性有機物を分解する能力を持つ深層水微生物を活用して、汚濁負荷削減に役立てます。



研究の全体イメージ図

【期待される効果】

- ・サガラメ等地域特産食用海藻の生産が小規模事業者レベルでも可能となることは、町おこし等の地域活性化活動のシーズとして活用が期待されます。
- ・生産性の高い大型海藻生産システムは、食用海藻の大量生産のほか、太陽光を活用したバイオマス生産等新たな産業化への足がかりになります。
- ・水産加工場では、排水に難分解性有機物が含まれることから、汚濁負荷の削減に多くのコストを要しています。本研究で見いだした深層水微生物を既存の生物分解槽に添加することで、そのコストを大幅に削減することができます。

【年次計画】

細目課題	27年度	28年度	29年度
有用海藻類の陸上養殖技術の改良に関する研究			
難分解性有機物分解能を持つ深層水微生物の探索に関する研究			

(作成 平成27年4月)